宗像

毎月一日発行
発行所
宗像大社
福岡県宗像郡玄海町
電話 神湊133番
定価 一年 送料共500円

神具、装束
結婚式場用品
株式会社 井筒
福岡支社 福岡市吉塚西林寺町 西林寺内 電話 (65)九四五六
本社 京都市下京区油小路通六条北入 電話 京都 (35)六〇六六・一三三四番 ○三三七・九七八八番

涼風

宗像川の流れ果つるところ
玄海の荒波と交わる江口の浜
白波は砂に戯れ
松籟は積雲の彼方より来り
連々たる川面を渡る

（写真は釣川河口の風景）

秋季大祭のお知らせ

昭和四十二年宗像大社秋季大祭祭典日程が去る七月一日別表の通り発表された。

全国に類のない大海上パレード郡民こぞって祝う「宗像放生会」これらの祭典は九月三十日から十月三日まで四日間にわたって行われる。

この祭典日程に従って大社では八月に入ると「みなと祭奉賛会」「海洋神事奉賛会」等、種々の会合が催され、祭典計画は更に具体化する。その結果詳細なる実行計画案が立てられ、九月中旬に氏子総代会に発表される運びとなる。亦郡外の崇敬者の方々には社報「宗像」を通じて逐次お報せする予定である。

秋季大祭祭典日程

九月三十日	午前九時	高宮祭
	十時	辺津宮出御祭
	十一時	みなと祭
	午後六時	宵祭　於神湊
十月一日	午前八時三〇分	中津宮出御祭
	九時三〇分	大島御発輦
		海上巡幸
	十一時	神湊屯宮祭
	十二時	秋季大祭
十月二日	午前十時	秋季大祭
十月三日	午前十一時	護国神社大祭

〃全国からの人形をお抜いして〃
夏越祭（なごしのまつり）を斎行

積雲たなびく真夏の下、恒例の夏越祭は七月三十一日の大抜式に始り、八月一日、二日と三日間に亘って、斎行される。

三十一日は〃みなつきはらえ〃といって、一年を二期に分けて、その前半期の最後の晦日に罪、けがれを抜う行事である。

当日は朝から地元総代さん方の奉仕によって目もしみるような緑のちがやで茅の輪が作られ神門に飾り付けられた。

午後五時、全国各地から送られて来た人形は唐ひつに納められ、神門のかたわらに供えられた。

この人形抜行事の信仰は実に古く、四、五世紀頃の当社沖津宮に奉献された祭祀遺品によっても、うかがうことが出来る。

特に石製の人形、船形、馬形等は古代の人々が安全と繁栄の祈りをこめて神に捧げたものである。（現在当社の宝物館に収蔵）この信仰は現在も尚連綿として続けられている。

七月初旬、全国の崇敬者各位に赤白二体の紙製人形が郵送される。この人形（男は白、女は赤）に各自の姓名と年令を記し、息を吹きかけて枕の下に敷き、一夜経た後、当社に返送いただいている。

当日定刻になると全職員が堵列し、先づ権宮司が大抜詞を読み、参列者全員に手渡された切麻によって今までの罪、けがれを抜う。

そして夏越抜のうた

◎思うことみなつきねとて麻の葉をきりにきりても抜ひつるかな。

◎みなつきの夏越の抜いする人は千歳の命のぶと云ふなり。

◎宮川の清き流れにみそぎせば祈れることの叶はぬはなし。

を唱えながら宮司以下参列者すべてが茅の輪くぐりの儀を行う。

この神事が終ると前半期の罪、けがれを集めた人形は玄海の果に流される。

この夏越の祭りは、季節の変り目に身を清め、心を新にする神事であり、当社の人形は其の変り目を知らせる生活歴ともなっている。

こうして夏越の祭りは交通安全祈願祭と共に厳粛に斎行される。

論説
渡らぬ歩道橋

一日数万台の交通量がある国道に沿うて、林立するアパート群。拡張につぐ増築は、急激な人口の増加を見る。これに伴い学校、病院、郵便局などの設置が、団地マダムの集団に強く要望されて、「清き一票」の欲しい議員が実現を急ぐ。当局は議員がこわいし、議員は選挙がこわい。

そして団地マダムは交通事故がこわいのである。このいたちごっこの恐しさが、造作なく（？）歩道橋を幾つも実現させた。一箇所の建設費四百萬円以上が、清き一票の威力でひねり出される。

ところで朝夕の通勤時、バスで毎日見るのだが、歩道橋を渡る人影を滅多に見かけたことがない。成人児童を問わず、多くの車をストップさせて、歩道橋の下を横切っている。「昇ったり降りたりで面倒だから」とは、歩道橋を使わぬ理由。

「歩行者は王様じゃない、危険を避ける為に、児童を守る為にとやかましく訴えて、造らせておきながら」とは取締りに懸命の警察官の不満である。成人が不精で車道を横切れば、いたづら盛りの児童が、多少のスリルも味わえる車道横断となるわけ。

渡らぬ歩道橋なら、貴重な税金の生んだ無用の長物にひとしい。この外にも団地マダムの「清き一票」の集団威力が、思いつきや功利心、さては得手勝手のわがまゝ主義を発揮する例が幾つもある。

近代生活の発展は、種々のエゴイズム現象をも発達させた。特に戦時中少女であったマダム連に、この傾向が著しい。この年代の人たちは、家庭生活にも何ほどかの経験をかさね、小学生や幼稚園児を育てている。戦争末期から終戦直後の物資乏しく、生活不安定の時代に、満たされぬ少女期を送ってきた。当時懐いた生活面の不満が、今日強い反動意欲となって、家庭内は勿論対外的にも強い功利主義権利主義の現象となっていると、観察するのは誤りであろうか。

団地の入口に毎朝通園児とそのママの一群が、バスを待っているのを見ると、しつけのない放漫な背後の日常生活があることを否めない。この年代の母性は訓練されていないと、思える人たちが目につく。再教育は難しいし、この人たちが家庭的にも社会的にも、中核にある間は、教育も政治も手直しが難しいのだろうか。

多くは公民館活動など相手にしないが、小学校の教育施設には強い関心を示し、PTAの会合の出席率は良好である。かわいゝ子供の教育に熱心なのは、母性の愛情の現れだと見れば、それまでのことだが、ここにも多分に功利主義に根ざす主張が濫発する。

学力をつけて良い上級学校に入れ、良い就職にありつく。この傾向が小学校の教育施設に対する強い関心を示す理由である。

強いられるまゝ已むを得ず、PTA会長をやって泣かされたことがある。児童の急激な増加が予想され、校舎の増築が要求された時、当局との折衝、夜間の役員協議、米軍の援助懇請など私費と時間を費やしての奔走はまだよいとしても、PTA総会でマダム連の役員攻撃には驚いた。新学期までに教室の建築が間に合うかと、こちらに重大な責任でもあるかの如く、若いママは演説口調で詰問する。あやまる馬鹿々々しさ。

聞いてみると、一年か二年で他の土地に転勤になる。若し東京か大阪の場合、子供の学力が低下していたら、それこそ大きな損失だとのご託宣。増築がやっと間に合って、新学期の教育ママのつるし上げは免れたが、誰からも喜びの挨拶は聞かなかった。ほろにがいまことに有難い会長教育を受けて、団地マダムに感心した。

そのうちに歩道橋が、不精やわがまゝを反省させて活用される時期が来るだろう。気長に待つより外はない。そのうちに功利主義の教育ママの中核時代が過ぎ去るだろう。これも気長に待つより外はなかろうか。日本は世界一のわがままの言える国だと、ある中国人が評しているが、喜んで聞ける言葉ではない。

阿蒙少言

乙姫さまのような髪かたちの女性が、老婆をいたわりながら、バスに乗ってきた。日本女性の美徳を、みごとに兼ねそなえたつつましさ。バス停にとまった。乗客が降りかけた。乙姫さまはあわてて起つや、老婆も、子供も押しのけて扉に猛進。龍宮の婦徳は、そそっかしい ○彼は私大に学位申請の博士、ボクは官大の博士、とカタログのじまん話を聞かされる。外国留学で論文を買って帰る博士もいる。いずれも学者と称する学識セールスマンの商法か ○医院の舞台裏で博士の看板をあげる医者が、経験ゆたかな看護婦に患者の治療法を教えてもらっている。ひどいのになると、患者の身分や経済力によって妻君までが、サジ加減にくちばしを入れる。看板のない超博士が、舞台裏におどっている例は、医院に限ったことはない。道を誤り、国を危うした超博士の誤診を、古今の歴史が嫌っている ○心の療法をつかさどると自任する宗教者の舞台裏も、神や仏に嫌われる怪談がある「詐欺横領の記事はにくむべきジャーナリズムの横暴で、不起訴は青天白日を証明した」と、或る宗教者の会合で弁明。不起訴処分と、青天白日とは関係ないこと、少しばかり法理論を読めばわかる。アミダ様の判決をきいてみたら「ジャーナリズムが悪いのではない。みんな私が悪いのだ」と ○横領つかい込みの宗教者も、本山的機関に上納金を気まえよく出し、周囲の関係者に酒食のもてなしを怠らねば、いずれも青天白日らしい。よきご時世と云うべきか ○医者は農薬を使うなと云う。役人は農薬をすゝめる。右ヨクは軍備を充実せよと叫ぶ。左ヨクは反対の旗を立てる。どういたしましょうか、神様仏様。「みんな私が悪いのだ」と。

（白雲）

第七十四回 宗像大社献詠歌会詠草
七月二十日　於社務所詠草到着順

田島　麦野　時雄
幾十日待てども降らぬつゆの雨あえぐ苗代田植もあやし

遠賀　長畑　房江
水揚ぐる発動機の音窓外の曇りの中より聞え来るかも

勝浦　永島　計七
空梅雨と思えど雨よぶ雲のあり今日外出の用意に途迷う

宮田　片山　朔子
祝電も贈物も切花（はな）も盛り添えて二十四回の次男（こ）の誕生日祝う

宮田　北原　君子
人こみをわけつつ行ける花道展子の活けしありシット見つむる

戸畑　田中　桂一
風呂敷に包み持ちたる千巻の束老母は吾れの食ぶるを確かむ

戸畑　田中ハツセ
新生児あづかりし夜は泣き声にまんじりともせず夜明けとなりぬ

津屋崎　占部　由久
空梅雨は杞憂となりて降る雨にまちかまへたる田植はじまる

福岡市　藤田　信子
木洩れ日をはだらに受けて砂山を歩めば初夏のあわきぬくもり

香椎　桜井　ツ子
みちのくの風鈴ひとつ軒につりてひめやかにわが人はしのばむ

宮田　片山　一
みはるかす広田は白く土炒れて陽炎はた「梅雨のさなかに

田熊　鷲頭かつ代
出土品に見しなるくらしの片鱗もゆたかに宗像豪族の塚

村山田　吉田佐市郎
打続く日和の後の空梅雨に日夜きをもむ田植用水

東郷　有吉　春子
雨に煙る博多埠頭を離れゆく「ふじ」のデッキよりカメラ振る夫

宗像　八波　五月
阿そ宮のふるきつたえを説く祢宜よ我が宗像の社家の出と聞く

久留米　篠田太郎坊
どこからか花の苗もらい来る母の背の丸みをじっと見ており

福岡　江崎　琴子
影ひたす濠の柳の木蔭にて釣をたのしむ親子笑ましも

福間　森　八蔵
谷かにの植田青みて水まわりの人影みゆる夏の夕暮れ

大井　村山　幸生
まちかねし雨に恵まれ里はみな田植となりぬ活気にみちて

名島　吉田　信夫
満ちて来る潮のまにまにたそがれを鷗は群れて白く漂ふ

福間　松尾　豊
忽に汐満ち来れば斉魚舟の葦間に浮び揺れ初めしが見ゆ

大井　吉田　杏子
見はるかす青田すがしく風立てば心平らふ朝の一とき

大井　木原　房子
つゆさめの何時しかやみて霧流る薄暮に灯す蛍さびしも

大井　安部　重郎
それぞれに仕事を持ちて教え子の雄々しく生くる姿たのもし

大井　安部　静子
あじさいに一日の疲れ忘れけり玻璃越しに見る水色の花

東郷　藤崎　辰子
愛するは傷つく事と読みし時ふと鋭きものを感じたり

田熊　小野角次郎
黄花の燃えし石蕗盛り過ぎ石庭の岩に青柴寄りそう

田熊　小野　花居
ひねもすを厨仕事に追われつゝ疲れし夜もしばし歌誌よむ

大井　吉田　和子
日一日と青き増しゆく田の面を風流るれば踊ること見ゆ

深田　中野　節子
緑濃きこうこう竹の下枝に短冊飾りて孫等帰りぬ（七夕）

東京　麻生　文子
目のうすき友の水茎美しく便り捨て得ず小筥にみてり

名残　竹原　円
移植して枯れしメノミを朝毎に惜しみて見つゝ梅雨あけたり

名島　久保　房江
越のくにゆはろ〳〵われに送られし五葉の小松いろよくそだつ

田島　白雲　山人
宗像のおくになまりにむつび合ふ郡人会は世にたぐひなき

沖島　佐藤市五郎
歳古れど名残り変らぬ今になほ青葉かほれる桜井の宮

農村に住む若い知人の妻が、元気いっぱいの二児を顧みての車中の話「幼稚園の先生が、今の母親はサービス過剰で、心身ともに健康な子供を育てるためにはもう少しサービスを減らして欲しい、と言われますが、強い子供はもっと自然に育てるべきだと思います」と。よい意見だと聞いた。

衛生だ栄養だと、あまりに子供を大事にしすぎる、かばいすぎるのが現代の通弊。特に智育だ人権だとまでゆけば、子供は精神的不具にまでゆがめられる傾向さえ見られる。

一般的に、金持の子は弱い、貧乏人の子は強いとされるが、サービス過剰が知らず〳〵訓練を欠いで弱い者にする。心身ともにすこやかな子は、風雪のきびしさのない忍耐の訓練をうけない所謂温室育ちの中には、求められないのである。

又都会の子は、意志が弱い、田舎の子はネバリがある、ともよく聞く言葉であるが、これもサービス不足の家庭にあって、自身の努力によって伸びる田舎の子の意志の強さを見た意見。

「良い苗は田舎に育ちますよ、その質実純朴な環境の中に、すなおに成長する田舎の子供に、将来が期待される。一見リコウに見える都会の子にくらべて、劣るかに見える田舎の子供に多くの美点がある。田舎に育つ苗の方が、ほんとうにたのもしい」

宗像談話室　田舎に育つ苗

これは郷土宗像が生んだ大先覚と先日面談の折に、特に強調された印象的な一言である。この尊敬すべき大先輩自身が、田舎に育てられた良い苗であったに違いない。

明治百年、維新の大変革の主役は田舎侍で、名門の公卿や大名ではなかった。明治の建設期から現代に至るまで、政治経済をはじめ学問芸術等に亘つて、その指導的役割を演じた人々の多くは、田舎に育つた苗であった。現代に於ても東京その他大都会出身で、傑出した人物は少い。

「どこの馬の骨かわからない」などと、名もなき田舎出の青年を軽べつする風は、今もなお大都会の特に家名を誇る無能者の間に残っている。恵まれた温床にわがまゝに成長して、祖先の遺産にあぐらをかき、その糟粕をなめて優越感を覚える程度の人間は、概ね都会の弱い苗である。

戦国風に言えば、やがて馬の骨の軍門に、馬をつなぐことになりかねない。風雪の訓練にきたえられぬ人間が、一道に秀でることなど、あり得ない奇蹟に類する。

人間の世渡りは、世情がいかに安定した時代でも、常に乱世である。殊に男子の世渡りは、しよせん乱世を生きる心構えがなければならない。優勝劣敗、自力を槍一筋と頼む戦いである。美々しい甲冑に名剣を帯びていても、気骨隆々の馬の骨を優越感や軽べつ眼だけで圧倒することは出来ない。

名門の自壊作用と、馬の骨の困苦にみがかれた底力。これを東京の学生々活の一面にあてゝみると、大邸宅にサービス過剰の坊ちやん、困苦に堪えて三帖の浪人長屋に忍ぶ貧書生、乱世の勝敗は自ら明らかであろう。

英国大商社の招待留学により、この程知人の長男がケンブリッジ大学に出発した。刻苦勉励して東大を卒え、この留学生試験に只一人合格、勿論田舎に育つた苗である。出発前父母とともに英人支社長宅に招かれた時の話「六七才になる男児が、客である自分達の承諾を得て出てきたが、腰をおろして足を組んだ途端、夫人は激しくその足を打った。英人家庭のしつけのきびしさに敬服した」と。

鞭を惜しめば児をそこなう、英国の古い格言。恵まれた都会の苗は、田舎以上の訓練しつけが必要だが、これは難しい問題である。

——狸住庵茶話——

八月のまつり

一日 夏祭り　午前十時
二日

この夏祭りは、夏から秋にかけての交叉点に於て、恙無く過して来た半年を祖先に感謝し、稔りの秋を前に風、雨、虫害のないように祈念する祭りである。

当社では、前日の大祓式に引続いて夏祭りを行っている。

このほか、特に交通安全の大祈願祭をも行う。

中津宮七夕まつり

陰暦の七月七日の宵、中津宮に於て斎行される。

漢土（中国）の牽牛、織女星の伝説と乞巧導の風俗とが我が国に移され、わが国固有の信仰に結びついて七夕まつりが行われるようになった。

五色の短冊に歌や文字を書いて色紙など竹笹に結びつけ、六日の宵から飾りつける。

当社では、大島の中津宮の境内に祭られている末社牽牛、織女社の大前で祭典が行わる。

この時人々は技芸の上達を祈る

今月の言葉

「身正しく心明らかなれば、我が身即ち神なり」

身正しく心明らかに仲々いかないのが常で、正しさの基準も又定め難い。神に祈り、神に誓う事によって道は開け、神の教えに叶うのである。

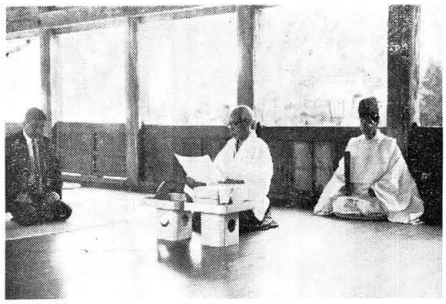
標柱石を奉納

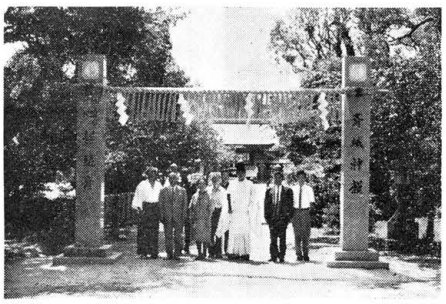
―福岡市の大和久雄氏―

大社の正面参道にこのほど〆柱石が一対建てられた、場所は反橋と大鳥居の中間に位する所であるその結構は二段積みの石の上に縦横五〇センチ高さ四メートルの巨大な長方形のみかげ石が載せられている。亦その前面には「斎城神韻」「心静延寿」と彫られ、裏面には「宗像郡南郷村野坂、大和六郎孫啓藏長子大和久雄」と刻まれている。

この標柱石奉納には心暖まる物語りがある今より三年前の晩秋のある日、福岡で住宅会社を営んでいる大和久雄さんは、祖父の崇敬した宗像大社を拝せんものと多忙な一日をさいて宗像詣を志された拝殿で恙無く参拝をし、吾れ今日あるはこの神に護られし父母の賜と感懐を胸に秘め心字池の畔を逍遥した、すると中之島のあたりに立ち並ぶ奉納碑の中に「奉納金圓南郷村大和啓藏」とあるではないか、忘れもぬ祖父の名前である。これぞ先祖の我が歩む道を啓示したまう所ならんと、その日より大和さんは〆柱石の奉納を決心した。大神の鎮り坐す境域にふさわしいものをとその設計を福博で名の通った国松石材店に依頼した。その設計が出来上るや、大和さんは大社に奉納を申し出られ建立場所等について詳細の打合せを行った。それから以後良材を全国にわたり探し求め、幸い徳山産の良質のみかげ石を得る事が出来た。工事が始まるや大和さんは、仕事の合間に又、一日中炎天の下工事に立ち合われたこの真心に打たれた国松石材店の人々も技術の限りを尽して工事に当った。依頼主と施工者とこの両者の誠心が混然と融和し、〆柱石は七月二十日無事その落成を見るに至った。

奉告祭を完えて大和さんはこう語られた「これで安心しました。気がかりな事が一つ果された想です。まだまだ長生きをして祖先の敬い続けた、宗像大社に私の崇敬の誠を尽ねばなりません」





「出光興産家族寮」地鎮祭

―奥牟田の景勝地に―

去る七月八日午前十一時、福岡市奥牟田に於いて、出光興産株式会社福岡支店の家族寮起工式が厳かに斎行された。

当日は、早朝から豪雨に見舞れたが関係者の参列のもとに、式は滞りなく終了した。

奥牟田の地は、なだらかな山の中にある景勝の地で、市内の雑音から離れ空気は澄んでいる。

造成された宅地と道路はほゞ整い、今後多くの住宅が予定されている。

同興産家族寮の施工は大成建設。完成は今年中との事である。

伊藤喜工作所　福岡工場竣工式

去る七月二十日、午前十一時より宗像郡宗像町赤間に、事務用品の専門メーカーの伊藤喜工作所株式会社福岡工場が建設され、その竣工式が社長以下関係者多数参列のもとに斎行された。この工場は国道三号線に面し、事務用品の製造販売には便利である。

所長の挨拶に

「森林都市を背後に控へ、地理的環境的な上からも最適な場所に位置し、産業振興の上からも、この宗像郡に第一歩を成した企業である。今後益々発展させたい」と抱負を述べ盛大に祭典を終了した。

社務日誌抄

七月一日　月次祭斎行

二日　神湊船越家地鎮祭。城戸権祢宜奉仕。

五日　福岡市の大和久雄氏、標柱石奉納の為来社参拝さる。NHK職員三名、沖ノ島取材打合せの為来社。

六日　大阪博物館より安川良三氏「第三十回特別展古代豪族の遺宝展に当社宝物出品依頼の為来社。一部が出陳される事となった。

七日　郡内評議員会、午前十一時斎館に於て開催。

八日　福岡出光興産社員寮地鎮祭、宗像、末安権祢宜奉仕。

一〇日　神湊海水浴場水神祭、神湊観光協会参列。

一一日　出光丸、日章丸、オリンパス号航海安全祈願の為、出光タンカー（株）門田重役参拝。NHK沖ノ島宝物撮影。

一五日　月次祭並に祇園祭斎行

一六日　標柱石建立工事、国松石材店により始まる。

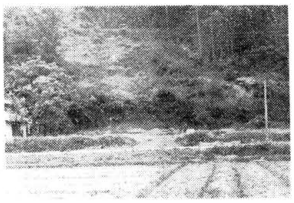
一九日　日本赤十字社福岡県支部より社員二名来社。NHKテレビで「沖ノ島」が放映された。

宗像大社職舎建設始まる

当社発展に伴って職員も漸増し職舎が不足して来たので、この度職舎を新築する事になった。

新築家屋は木造平屋建十六坪半三棟で、場所は玄海町片脇の地である。去る昭和三十六年に職舎五棟が建設されてから数えて六年目。

新築家屋は既設のものをベースとして、各所に改良が加えられ、間取りもやや広くなっている。



八月一日より工事が始められ、完成は九月下旬の予定。

海水浴と生魚料理に！
米屋旅館
宗像郡玄海町神湊
電話神湊一一一番

許斐の旗風

（其の八）

葦浦柴舟 作
福田長庵 画

出陣（一）

宗像本宮から許斐山迄約三里（十二キロ）。続々と隊伍が続く。花曇りとでも言うのであろうか、空は晴れているが山際は茫と霞み、許斐山はわずかに山頂だけをのぞかせていた。沿道には村の老若男女が見送りに出ていた。野良着のまゝ、吾が夫吾が息子を送る老婆、幼な児、いずれの面（おもて）にも戦勝を託している祈りにも似た眼差しがあった。

兵士達の胸奥にも、押えがたい惜別の情と、如何にしても勝たねばならぬ重大な決意とが交錯していた。意気揚揚と胸を張って行進する者、胸ふさがれて言葉もとぎれがちな者等様々であった。

許斐三郎康氏の一行が大井から東郷部落を過ぎる頃、杉の木立の蔭に一人の娘が待ち受けていた

「渡辺さま！……」

小さな口をついて叫びにも似た高い声が渡辺小太郎克忠にかけられた。

隊伍の兵が一斉に振返った。杉の根元に両手をついて克忠を待ち受けている。

克忠は輩下のものに先に行くようにうがして、静かに馬を佇めて立寄った。

髪を後で束ね、藍色の麻の重着蓬色（よもぎいろ）の帯を無造作に結んで藁草履をつゝかけている白い項（うなじ）が小きざみにふるえていた。

「おもてをあげるがよい」

「はゝ、はい――」

娘は顔をあげて克忠を見上げ、無言のまゝ、山椿の花を静に差出した。娘のまつげに朝露にも似たキラリと光るものがあった。

克忠は暫し身じろぎもせずに椿の花と娘を凝視した。

克忠の脳裏に、昨年春三月、野駆けの時の出来事が甦った。

春の柔らかい日射しが許斐山にふりそそぐ朝、許斐城主許斐三郎康氏から、今日は野駆けをするから供をせいとの突然の下命。てだれの者三十四騎が轡を並べて許斐山麓を走った。

東郷の原野を抜けて、対馬見山の麓をめぐり帰途につく頃は、春陽は西に傾き、薄闇が地を這うようにあたりを包んでいった。

平井の里を過ぎる時、かなたの菜畑に鋭い悲鳴が聞えた。

康氏は克忠にものみを命じて又疾風のように許斐城をめざして走り去った。

克忠が一行から離れて件（くだん）の菜畑に急行すると、山賊（やまがつ）らしい二人の男が、一人の娘を追い廻しているのであった。

克忠は争いの間に馬を乗り入れた。

「待て！」

「如何なることわりあるにもせよ二人の男が娘を追う事、尋常の事と思えぬ。わけを話せい！」

克忠は語気鋭く言った。

二人の山賊は、舐めるように娘と克忠を睨み廻した。

……と一人がサッと背負っていた山刀を抜いて身構えた。他の一人も刀を抜いた。無言のまゝ克忠の方へにじり寄った。

「待て！命をそまつにするでないことわりを申せ！」

克忠も腰の刀に手をやって馬上で見構えた。

「城の衆は黙って去れ、われたちの事構うでない」毛皮の胴服を着た男が喚えた。

「許斐の手のものと知って手向い致すか、面白い、相手になろうぞ」言うや否や、克忠は馬腹を蹴った。克忠の刀が一閃、二閃すると、山賊の刀は中空にまき上げられた。勝負は決した。克忠は逃げる二人を追わなかった。

娘は平井の庄屋の娘で名をあさと言った。薄が秋風にゆれる望月の宵、許斐三郎康氏は城内中庭で主だった者を集めて月見の宴を開いた。

許斐城から眺める月は、まん円く美しい。

幔幕をめぐらした片方には重臣達、家中一同が居ながれ、片方には城中の女たちが粧いをこらして座ってた。

女達の琴の音に松韻が和した。この観月の宴には、郡内各庄から美しい娘が上って接待する習しになっていた。

渡辺小太郎克忠のもとに来て侍したのは、あさであった。

あれから半年、今出陣の餞（はなむけ）に一折の椿を……克忠の胸に熱いものがこみ上げて来た。

（つづく）

中津宮たなばた揮毫会

― 健筆を振う良い子達 ―

宗像郡内のよい子達の腕を競い合う恒例の中津宮七夕揮毫会が去る七月二十一日に行なわれた。

この日、空はあくまでも晴れわたり、群青の玄海灘を子供等の応援をする父兄等を乗せた弁天丸が白波を蹴立てて往来する。午前九時、会場の大島小学校で、先ず小学生の部の揮毫会が行なわれる、真剣なまなざしで墨をする一年生、たっぷり筆に墨を含ませ、余裕をもって書き上げる六年生、窓の外から吾が子の出来や如何にと見守る父兄、やがて破れるような歓声と共に一枚の清書を手にして子供等が飛び出す。次から次へ審査場の中津宮へと我れ先に駆け出す。何十段もの石段を一息に駆け上り息をはずませて力作を受付に差し出す。顔に墨をつけている子供、手足を真黒にしている子供、どの子も笑顔で一杯だ。「あの子は敢闘賞だな」「あの子には努力賞をやらにゃなるまい」審査の先生が社務所の窓からのぞいての採点である。

引き続き十一時から中学生の部の揮毫会が行なわれる。これが完ると奉納式が行われ、愈々審査に入る。審査場の社務所一面に作品が並べられ次々に選出されて行く。準特選、特選と高位になるにつれて審査場の中が熱気をはらんでくる。終に甲乙つけ難く三人の審査員が鳩首協議をする。決定！場内にはほっとため息が洩れる。一方採点係の先生は次々に名前を読み上げ、黒板に書いて行く。

入賞作品が中津宮回廊に掲示される。「あっ！今年は去年よりも好いわ」とつぶやいている女子中学生に聞いてみると、小学校一年生の時からこの揮毫会には欠かさず出品しているそうである。

午後四時審査終了、中津宮神前に奉告祭を行い、次いで宮司挨拶審査員の講評がある。四時三〇分、揮毫会は全て無事終了し、子供等が帰途につく。良く学び、良く遊び、又来年も来たまえ。君等の幼い肩には明日の日本がかかっている。

成績

団体優勝
小学校の部　東郷小学校
中学校の部　大島中学校

最優秀賞（宗像大社宮司賞）
東郷小五年生　中山　久美
中央中　桑野　明子

特選
小学一年　東郷小　こばやしせつこ
二年　赤間小　わたなべさとみ
三年　東郷小　中山みゆき
四年　大島小　貞松　寛人
五年　東郷小　中山　久美
六年　東郷小　吉田　智子
中学一年　中央中　桑野　明子
〃二年　須藤　鈴子
〃三年　阿部　葉子

「宗像神社要覧」編輯始まる

― 復興期成会が刊行 ―

先に宗像神社史上下巻が復興期成会によって上梓されたが、これに引続いて、一般の方々にわかり易い、要点を記した略記的なものも必要であるとの観点から、現在復興期成会の手によって「宗像神社要覧」の編輯が進められている。

これは宗像大社の来るべき大復興に備えて、広く一般の方々に当社の由緒、沿革、現状を御理解、御協賛をいただく為に企画されたもので、四十八頁、アート総カラー、本文並びに写真説明文を簡潔にし、難解な語句を省略、白地の部分を大きくとったすっきりしたもの。全体として、読まずに写真で御理解いただくようになっている。表紙は錦地のものと、本殿お屋根が大胆にデザインされたビニール張りのものとの二種類で、復興期成会では、是非今秋迄に完成させたいと語っている。

六年前、逸早く英文の略記が当社から刊行されたが、此の度復興期成会の御好意によって、邦文略記が刊行されるわけである。

宗像大社宝物館　宝物を訪ねて

神鏡の巻（十一）

勘合印（かんごういん）

当社に伝わる勘合印は、縦三、横三、二糎の印で、刻まれた印文も解読し難いものである。この印文は中世末期から近世前期に記されたと考えられる。勘合印由来記によると、「宗像氏俊（第六二代宗像大宮司）は、光明天皇の御代に使者を朝鮮に遣わし、朝鮮と交易した。南北朝動乱の後、九州探題の下に仕える大内氏と宗像氏とが姻戚関係を結んだ。この大内氏は勘合之符を有していたので、宗像氏もその特典に預りたく、氏俊は自から朝鮮に渡って朝鮮と勘合制度を定めるのに成功した。そしてその印の模造は今、草刈家にある。この印章を朝鮮から得た由来を記して付属文書としている」とある。

ここで宗像神社と宗像氏の海外交渉の歴史をみると、まず古代には、九州北辺の地が早くから大陸文化の影響を受けていたことは、考古学的にも、当社の宝物「鏡、三彩釉陶器片」等をはじめ、志賀島出土の「漢倭奴国王」の金印更に日本書紀には縫工女（きぬひめ）を当神社に献じた記述などから明らかにされる。平安時代に遣唐使が廃止されると、社寺や豪族など民間の対外貿易が盛んに行われ、宗像氏も対宋貿易に進出したことが古記に見える。鎌倉時代には、色定法師の一筆一切経の奥書に、綱首（貿易商人の船長）である張成、李栄などの人々から墨や紙等の助成をうけている、このことは神社並びに宗像氏がこれらの綱首と格別な関係にあったことが推察出来る。

又石製狛犬、阿弥陀経石等いずれも宋から輸入されものであり、この時代は対外交渉が盛んであったことがわかる。話を勘合印に戻そう。勘合印由来記に記された氏俊前後の頃は、九州探題、大内氏、島津氏等の諸豪族と並んで、宗像氏も玄界灘の主権を握り、海外に進出し倭寇の一群を指揮下に治め、その勢力は壱岐島にも及び、自から朝鮮と貿易している。

第六八代大宮司氏郷の時代に至っては、中国の李朝実録に見られるように一四六二年より一五〇四年の間、毎年貿易船を出し、多い時は年に三度も渡っている。また勘合印由来記によると「宗像領内には、外国船の来往繁きものがある。」と述べていることからしても、当時博多や、瀬戸内と共に、この宗像領も大宮司の才腕により、他の豪族を利用しつつ、対外貿易を盛んに行ったことがわかる。

× × ×

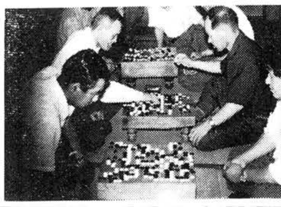
宗像郡町村対抗碁会行わる

宗像町堂々優勝

郡町村対抗囲碁大会は、七月九日、宗像大社清明殿に於て開催された。

当日、田植上りの梅雨も抜け切らず、早朝より時折雷雨を伴なった断続的な驟雨に見舞われたが、それでも、郡内五町村の代表並びに同好者等約百名が参加して熱戦を展開した。

団体戦は、各町代表十名が、五パート八人づつに分れ、各々リーグ戦を行ったが、さすがに各町より選抜された粒よりの選手だけに力戦が展開され、宗像町が予想通り日頃の実力を発揮して、圧倒的な強さで優勝。以下、二位津屋崎三位玄海、福間の成績となった。又、団体戦に出場出来なかった同好者による個人戦も高段者をも交えて、好試合を繰りひろげつゝ、和気あいあいたる中に、碁会を終了した。



便り

先日から夏越大祭の催しのお知らせを有難うございました。

私共、家族一同お蔭様で健康な日々を送らせていただいております。これも御社の加護のたまものと感謝致しております。

本年は殊の外天候不順で空梅雨変じて豪雨となり、山をつぶし家を押し流し人ものむという悲しい出来事もあちこちで起り、今更自然の厳しさを感じさせられております。

昨日、今日は真夏の暑さでまったくうだるような暑さでございます。御社の皆様もお元気に益々おいそがしくお過しの事と存じます。

ここしばらく九州へ帰ることもなくお便りに頼りお祈願をしていただいて本当に私達は幸せに存じます。

又、ここに人形にお初穂料を添え郵送させていただきます。

東京国分寺市　平川一渉

拝啓　暑さ厳しき折柄、お変りもなくまことに結構に存上ます。

此度は恒例の夏越大祭並に大祓神事の人形御送付下さいまして有難う御座いました。

つきましては、夏越の御初穂を御送り申上げますので何卒御神納下さいまして、何卒よろしく御願い申上げます。

佐賀市八戸町　塚原筆子

話題の新車をみる

ニッサンプリンスグロリアの巻（十三）

去る四月十五日、昭和三十四年より販売していたグロリアに変えて「ロイヤルライン」と銘打ったニューモデル「ニッサングロリア」を全国一斉発売した。日産プリンス合併による共同製作第一号である。車種はバンを含めて七車種。乗用車はスーパーデラックス、スーパー6、スタンダード。スタンダードとバンにはセドリックH20型エンジン使用。71型トランスミッションは全車に取り付け、グロリアの特長であったド・デイオンアクスルを廃止、リーフスプリングタイプに変更、日産車の部品の共用化を計っている。全長×全幅×全高4690×1695×1445㎜、ホイールベース2690㎜、車両重量175Kg、最高速度160Km h、最少回転半径5・5m、登坂能力0・417sinθ、エンジン型式直列6気筒OHC（スーパーデラックス、スーパー6に塔載）、内径×行程75×75㎜、総排気量1988cc、圧縮比8・8、最高出力105Ps、5200rpm、クラッチ乾燥単板、前進3段＋ODフルシンクロ変速．ブレーキ、（前）ディスク（後）リーディングトレーリング、懸架方式（前）独立懸架コイル（後）半楕円リーフ、フレーム型式、ユニットコンストラクション、これが主要諸元である。

ニューグロリアは従来の型と異り、落付いた上品なスタイル、即ち貴賓用リムジン「ニッサンプリンス・ロイヤル」のイメージを折込んで全体を広く長くまとめている。縦形に配列した4灯式ヘッドランプ、グリルを上下に2分割したクローム・メッキのストライプ。だがわずかながら繊細なパターンに於て旧プリンス系のイメージを残している。それにしてもロイヤルのイメージを採り入れたボンネットフードマスコットは印象的である。ドアは事故の衝撃でも開きにくい脱錠防止装置付きである。室内に於てはコンビネーションメータがカバーグラスを傾斜させ、あらかじめセットしたスピードを超過すると警報音を発する速度超過警報装置が付けられ、メーターは無反射ガラスを採用、安全性を配慮してパッドで覆い、黒で統一してプレジデントに似た豪華さを出している。

新型グロリア計画は、昭和三十九年に着手された。だがニッサン・プリンス両社合併により、ニューグロリアは誕生しないだろうと云う予想がなされていた。事実スカイラインの好調な売れ行きに比べ、販売数も下降線をたどるのみであった。何はともあれ、ニューグロリア誕生は黒い噂を吹飛ばした訳である。

宗像伝説　其の七十三

宗像海族

宗像地方は歴史の宝庫である。今月は、宗像水軍の物語りにふれてみたい。海の帝王として宗像一族が大きな支配権を握っていた一時期があった。

歴史に残る、「倭寇」に宗像一族は関係があったのである。倭寇について一番古い記述があるのは朝鮮の「高麗史」の中で、高宗十年（一二二三年）の頃である。

特に倭寇の活動が盛んになるのは、古くは十四世紀頃からで、彼らは朝鮮半島、中国大陸沿岸をかけめぐり明国からは「北虜南倭」（ほくりょなんわ）、朝鮮からは「三島倭寇」（さんとうわこう）と云われ、恐怖の的になっていた。

このような倭寇の活動は、南北朝から室町時代初期にかけての「前期倭寇」と応仁の乱の後から慶長役にかけて活動した「後期倭寇」にわけることが出来る。

これらの倭寇の中でも宗像水軍の勢力は大きく、特に宗像氏は宗像社領を支配すると共に、大島、沖ノ島、壱岐に所領をもち、遠くは糸島郡の沖合、小呂島迄も有して玄界洋上の支配権を確立していたのである。彼らは二、三隻の船団で人数が四、五人の少人数のものから、時には数百隻の船団で数千人という大規模なものもあった。

これだけの大集団になると朝鮮側では日本にリーダーがいると思うのは当然で、日本に使者を派遣してわ寇の取り締まりを依頼するようになった。

しかしこれを受けた九州探題は力が弱く、遠く海上迄も取締る事は出来なかった。海上の支配権については宗像族の方がはるかに勝っていたのである。

かくて、朝鮮側は倭寇懐柔策を行う事となる。彼等は御機嫌を伺い、積極的に正式な通商政策を行うようになった。

倭寇往来盛んなとき、宗像水軍の若き海の男、丸井八郎左衛門は、大宮司の密命を帯び、大船団を編成した。当時最も大きた港は神湊、鐘崎、大島で軍船がそれぞれ配船されていた。丸井八郎左衛門は大島の軍船の首領で副首領に鐘崎の縄田甚八神湊の永島惣衛門が選ばれ、其の日の夕刻には大船団四十七隻が首領八郎左衛門の采配により出船したのであった。

この水軍の船出は、宗像氏の雄大な意図があり、日本全わ寇の統卒はおろか、九州全十近畿にも及ぶ大勢力を握る計画のものであり、その為の軍資金調達であった。永い日数をかけ、ようやく目的を達し、巨萬の財宝を運び、朝鮮から対馬、沖ノ島と長い旅を終えてようやく妻子のまつ故郷の港を眼前にして、秘密に行われたこの計画が如何にして外部にもれたのか、仲間の水軍の嫉妬か、又勢力のうばいあいか、巨萬の財宝のうばいあいが起ったのである。付近の松浦、志賀ノ島、長門、北九州の連合軍がおそいかかって来たのである。夕闇せまる玄海は忽ち阿修羅の戦場と化し、潮に灼かれた海の男ののぶとい怒号、接舷して切りむすぶ白兵戦。ある船は火をかけられて黒煙と金蒔絵のような火粉をふきあげながら水没するさまは、想像も絶するような残酷な海の地獄絵であった。

海戦は瞬時にして決した。長路の旅につかれきった宗像水軍は死力を尽して戦ったが、万全のそなえでまち受けた連合軍に利あり、宗像水軍は敗戦の色濃くなった。首領の八郎左衛門は財宝が他に渡る事を恐れて、自から旗艦に火をかけて財宝と共に涙をのんで沈んだのである。

洋上すでに日は沈み、壮絶な死闘は全くうそのように、大きなうねりの中に遠ざかっていった。

今日玄海灘に面する無名の墓石は、これらの人々をいたんで建立されたと伝えられる。（H）

宗像大社献詠俳句作品集（五十六）

久留米　篠田太郎坊

手さぐれば螢は宝石こぼること

大井　村山　幸生

慈雨を得て生気はつらつ田植かな

大井　吉田　和子

螢かなし擦りても消ゆりおり

田熊　小野　淡坡

山狭にせゝらぐ谷の四五戸かな

田熊　小野　花居

ヒーマンのかくれし迄の草を刈る

大井　安部　吟松

濁世に生きておろがむ涅槃像

大井　吉田　杏子

病む吾子の頬骨高し青葉かげ

大井　吉田　房子

子も抄も花影浴びめ薔薇アーチ

大井　吉田　和子

白秋に降る雨やさし峡の宿

田島　白雲　山人

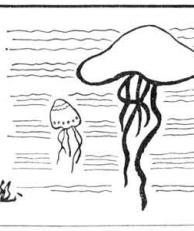
ブツテリヤ蝶ねむらせて夏を咲く

名島　久保　房江

神ばなし風にあづけむ蝉しぐれ

京都　中西　元

盆をよぶ三途の川の釣仲間



出光佐三一問一答シリーズ　⑫

マルクスが日本に生まれていたら

我が安全運転の記録

近頃の交通事故の発生は恐ろしい。かえって逆効果だよ。人間というものは理屈を自分が言うときは非常に愉快であるけれども、相手から同じ理屈を聞くのは非常に不愉快なものだ。それが人間なんだ。だから理屈をそのまま商売に応用しようとしたら、お客さんは逃げてしまう。そういうことをぼくは体験で知っているから「一と二を加えれば一というのは、学問だが、それをそのまま社会に応用していいか」ということを聞いたんだ。そうすると、「学問も社会も同じですよ、こういう返事だ。だからぼくは「それは違う。社会では二プラス二にさらに人情というものも加えなければならない。人情を加えなければ社会には通用しないぞ。君らは学問をそのまま社会に応用する悪い傾向がある」と言ったら、相手は黙ってこんでしまった。そこでぼくはさらに説明して、「人情を加えるのは世界共通の答なんだ。ところが日本は、さらに国体というものを加えなければ、日本人に対する答は出ない。国体を加えてはじめて正しい答になるんだ。人を責めることばかりせずに、学問と社会とを区別したらどうだい」と言ってやったら、それで話がついてしまった。後でその人は「あの油屋のおやじはおもしろいことを言うねえ」と言っておったそうだ。

そこでぼくが感じたのは、そのとき二十人ぐらい居たと思うが、二人か三人ぐらいは先天的にヒステリックな頭なんだね。あとの十七、八人は純情で頭脳明晰の人だ。そして一と二を加えると二という理屈、学問を理解しやすい、いわゆる秀才型である。しかし実社会に入って、人間の矛盾性を見せつけられるにしたがって、人情を加えなければ社会には合わない、ということがわかってくるんだ。今の若い人にもそういうところがありはしないか。学生のときには、大体二プラス一イコール二という純理論でいくが、社会に出て、社会にもまれて苦労しているうちに、人情を加えなければならないこともわかってきて、一人前の社会人となってくる。なかには病的にヒステリックでなおらない人もあるようだがね。普通の若い人は世の中がわかってくると、立派な人になっていくんだよ。金学連などというものも、そういう目で見ていたらいいんじゃないかね。ぼくは全学連をちっとも賞める気にならない。若い人は若い人らしいところが値打ちだ。

質問　マルクス主義に走った人には、真剣に物事を考える人が多いように思われます。それというのも、明治以後、西洋の物質文明が入ってきて、日本が「物の世界」に溺りつゝふされてしまったという事に物事を真剣に考え、正義感の強い若い学生や青年は、資本家の横暴とか、世の中の矛盾とかいったものに義憤を覚えるわけですね。

出光　学生として当然じゃないかね。ぼくら学生時代、黄金の奴隷になるな、と言って資本家の擁取に反対し出発したと言いましたが、それは同時に人間の解放を意味したわけです。マルクスは「人間を人間自身の最高の本体なり」とするような社会にたいと思っているにもかゝわらず、現実の資本主義社会では、人間自体が労働力という一個の商品となり、しかも人間労働の生産物が逆に人間を支配する、という姿になっている（人間疎外）。だからマルクスにとって、人間を人間たらしめる社会をつくることが、彼の思想の出発点であり、マルクス主義思想の根本問題となっているわけです。（つづく）

『運転の前に必ず安全十則を読む』

事故は多くなるばかりである。交通事故、こんな悲惨な事はない。でもこの悲惨な交通事故が毎日毎日繰発し、三十数分に一人、交通事故で死に、一分間に一人大怪我をしているのである。全国自動車オートバイの台数一千万台突破。福岡県でも五十万台に近づくとか、然もまだ〳〵増加するばかりである。近代生活を営む上においても産業の発達する上においても喜ばしいことである。それに反して、道路の整備、安全対策はどうか。これはどうでい現在の日本経済や、政治の状態では自動車の増加には追いつけず、車はふえる。道路は狭くて悪い、で交通事、車だ。国道や主要道路は川にも、家族が悲しまない為にも、私は自ら神に誓って守るときめた。

水の流れる如く、車がひっきりなしに走る。正に切れめなしであり、道路は川と同じである。人はおちく通れない。車もちょっとの油断も禁物である。道路の悪きを嘆く前に、信号機のないのを嘆く前に自分が、一人一人が充分注意すべきである。道路をよくろ

次のような交通安全十則を車には って運転する前に、心で声を出して、それを読み、それを厳守する ことにしている。そうする事が人を守り、自分を守ることになると思うからだ。

一、車の整備はよいか、もう一度見よ。
ブレーキ、タイヤ、方向指示器、ハンドル。
一、スピード出すな制限厳守。
一、わき見をするな前を見よ。
一、踏切り止れ、交差点徐行して目を光らせよ。
一、追越しやめよ、やむを得ない場合、全神経を集中せよ、中央線を絶対越えるな。
一、停車中の自動車の追越し、安全危険。車のかげに人がいる。
一、歩行者注意、特に幼児を見たら危険信号と思え。
一、予定より十分早く出発せよ。雨降り注意。

そして最後に

一、交通規則を絶対守ります。
一、自分の不注意が原因の事故は絶対に起こさない事を神に誓います。

以上十カ条である。簡単な事である。然しその簡単な事が仲々守られない為、事故は跡を断たない。歩行者優先とは云うが、運転者は歩行者の為に、歩行者は運転者の為に譲り合わなければならない。交通事故はその大多数が不注意と不注意が重なり、ぶつかり合って発生する。

一人一人が厳に注意すれば事故はずっと少なくなる筈。双方が不注意で正面衝突すれば二プラス一は二ではなく四、五、六、或はそれ以上の力となって大きな事故惨事となる。然し自己が充分注意していれば、もし万一の時、その衝撃は二プラス一は最悪でも二又はそれ以下となる事が多い。安全十則を声に出して読み、それを絶対守る事を神前に誓う事は、常々注意し、安全運転を心がけるという事に通じるのである。

筑紫郡大宰府町三条
有吉　重勝

経営とは何か

PFドラッカー

いう事はどういうことであるか。そして自分の仕事はどういうところに重点を置くべきであるか、ということを問確に記述させて、そして両方にその通り」と答えたい。これでよいか、という仔務であるかということの確認をする。確認をした以上は、学位を取ったというこの卒業

たようなものがいいとはみない。自分の仕事に多くの時間をとられるという重要な問題があるが、これはトップの地位というものは、十分に時間の余裕があるということは考えられない。したがって何とか間に合う程度の、少なくともいった割り当ての不備がある、という事実をつかんだだけでも相当役に立つであろうと考える。

この問題と関連して、トップ・マネジメントが自分本来の仕事以外の、交際といった面に多くの時間をとられるという重要な問題があるが、これはトップの地位というものは、十分に時間の余裕があるということは考えられない。したがって何とか間に合う程度の、少なくともいった割り当ての不備がある、という事実をつかんだだけでも相当役に立つであろうと考える。

この問題と関連して、トップ・マネジメントが自分本来の仕事以外の、交際といった面に多くの時間をとられるという重要な問題があるが、これはトップの地位というものは、十分に時間の余裕があるということは考えられない。したがって何とか間に合う程度の、少なくともいった割り当ての不備がある、という事実をつかんだだけでも相当役に立つであろうと考える。

その次に今度は、自身の仕事について、自分自身が企業全体にどれだけ貢献を期待されるかどうかということを考える。そこでなにか気づいたことがあれば、それについて処置が取れないにしても、少なくともいった割り当ての不備がある、という事実をつかんだだけでも相当役に立つであろうと考える。

その次に今度は、自身の仕事について、自分自身が企業全体にどれだけ貢献を期待されるかどうかということを考える。そこでなにか気づいたことがあれば、それについて処置が取れないにしても、少なくともいった割り当ての不備がある、という事実をつかんだだけでも相当役に立つであろうと考える。

それからこの問題と関連して、最高幹部であるという場合には、自分の時間が自由にならないということをまず認めなければならないだろう。これに対してはあきらめを持っていなければならない。自分の持つ時間の四分の三までが、だれかほかの人のために使われているということは、必ずそれを実施させるということが大事である。

優秀な人材ということに関連して、もう一つ私の考えを述べる。日本のある企業家の意見として、大学の成績を、一〇〇%優といった者が、そのときぜんぜんだめだという答がよく企業家の口から出る。それなら学生のときの成績を、なんのために聞いているのかということになる。

そこで学位というものはなにかというと、一つの責任をその人間に課しているもので、教育というものは、およそ世の中の投資の中でも相当高額の投資である。その投資に対する利潤というものが得られているかどうかということを考えねばならない。

非常に高度の教育を受けてるものに対しては、大きな仕事を与える、そして大きな結果が期待されるような、非常に大きな要請を課さなければならない。

次の方策として、部下の各部門の長に、それぞれの部門の、会社のために貢献をしなければならないことをまず認めなければならないだろう。これに対してはあきらめを持っていなければならない。自分の持つ時間を置くべきであるか、ということを問確に記述させて、そして両方にその通り」と答えたい。これでよいか、という仔務であるかということの確認をする。確認をした以上は、学位を取ったというこの卒業

二、人間開放の道

証書がなにを意味しているか、長い間机の前にすわっていつと勉強していたという証明以外の、なんの証明にもならないと、私は考える。長い間机に向って腰かけているから、おしりのほうは相当圧力がかかっているけれども、頭のほうになにか入ったかどうかという証明は、これらの証明書からは本当にでてこないといえる。

私は、少なくとも週一回ぐらい、どこかの企業家から、だれだれはあなたの教え子であるが、学生のときの成績はどうであったかということを聞かれる。そこで私は逆に、「いや、仕事のほうはどうですか」と聞くことにしている。

砂糖の話

砂糖の歴史

田中重雄

シナは唐朝以前には砂糖を輸入して薬用に供していた。初めて砂糖の製造を開始した年代は疑問である。晋時代には仏澄および鳩摩羅什の如き名僧がシナにきて、インドの文物を伝えていたのみならずシナの旅行者として有名な法顕和尚は、晋の安帝時代に天山南路を経てインドに入り、同地に永く留学した後、海路シナに帰り仏国記を著し、つぶさにインドの状況を伝えている。

製糖法の如きも晋時代（西暦二六五年―四二〇年）に伝えられている。プリンセン・ヘヤリッピは、法顕が四二四年にシャワに立寄った記事を掲げ、当時の交通状態から、ジャワ人はその頃すでに赤糖製造法を知悉していたであろうというが、これと同一の想像はシナにおいても適用されるものと思われる。げんに晋の郭義恭の著書といわれる「広志」に甘蔗膏（黒砂糖）という記事があり、其後晋代の記述なら、シナの広東地方においては、既に砂糖の製造が行なわれていたことが確実である。ただ広東は当時晋に属していたが、コーチと共に南蛮と称されていたから疑問であるが、広東は昔も今のようにシナの一部であるならば、シナには古代において既に糖業が営まれていたというのは唐朝以後である。

この広東地方の糖業に対し、閩の「南産志」に、初め入覆土法（泥土で蜜を洗い出し白糖にする方法）というものがあるとしるされ、元の時に安南（交趾支那）より黄長者という人来り、砂糖を造り庭に干しておきたるに、土塀崩れてその砂糖の一端にかぶさった。その泥を取り去ってみるに、そこだけ色が白くなっていたので覆土法を考え、厚貨を費して製法を完成した、云々

現今広東地方に生産されている砂糖を、土産糖とよんでいるのがうなづかれる。

次にジャワの糖業もエドモンド・フオン・リップマン氏の説によれば、インドとジャワとの交通は昔より開け、西暦五〇年頃にはインド人の移民が行なわれていたのであり、一世紀には既にジャワを経由するインドとシナとの交通も開けていたという理由から、糖業もその時代に始まったものと想像できる。

（つづく）

我楽苦多告知板

神社中庭の池で亀が卵を産んだ。Y君亀さんのお産を終始熱心に観察。卵が石の上に産み落され、亀さんが池の中へ退場してから、Y君一部始終を各位に説明した。これから雑音が湧き起り、ワイワイガヤガヤ……

鶴は千年、亀は万年、果してこの卵はかえるか、かえらないか。ついに百科辞典で調査するに及び六十日でかえると判明、来る九月〇日が御生誕やとの御託宣とはなった。

果して如何相なるかと、Y君毎日卵とにらめっこをしている。

原稿募集

「我が安全運転の記録」

この度、皆様から原稿を募集します。

交通安全の御神徳に因み、標題の醸集、感想等を左記要項でお寄せ下さい。

※題目　我が安全運転の記録
※〆切　毎月二十日迄
※宛先　宗像大社「宗像」編輯部
※採用の場合薄謝をお贈りします。